

二週連続で新築住宅内覧会を開催します。

建築物を計画する上では、「動線」を考慮しなければなりません。読んで字のごとく、「どうせん」。つまり間取りを考える際、人の動き方を検討したプランを立てると言う事です。

建築学生だった頃、動線計画にはパブリック（公的）な動線とプライベート（私的）な動線があると教わりました。

住宅であれば表動線と裏動線（家事動線）。店舗であれば客動線とサーキュレーション。建築の用途によって呼び方が違いますが、どちらもパブリックとプライベートの性質を持つ動線の事であって、共通するのはプライベート動線をコンパクトに短く計画し、なるべくそれらの動線が交差しないように計画するというものでした。

でも実際は住宅にかけるコストなどの経済的な問題や、敷地の広さや立地、建築の規模、家族構成などの物理的な制限を考慮しなければなりません。そして、もう一つはライフスタイルの多様化という事にも目を向けなくてはなりません。

なので学生時代に習ったようには計画できる訳もなく、毎回アーティストでもないと頭を悩ませています。

つまり、完璧な間取りなんて無いという事ですね。あつたら、みんな同じ家になります。それらを踏まえて動線を考えるというのが、プロである我々の仕事なのです。

住宅の場合、裏動線とか家事動線と言っているプライベートな動線をどう扱うかによって間取りの使い勝手に影響が出てくると言われています。前述しましたが、プライベート動線は、いかに短くコンパクトに計画できるかという事であり、具体的には、キッチンの横に食品庫があつて、そこから勝手口とサニタリー（家事室）につながり、更に洗濯機のある脱衣室まで一直線につながる動線が理想的という事になります。

例えば、そんなに広くない敷地で建築する場合、隣の家が迫った立地であれば、日当たりの良い場所にリビングやダイニングを優先的に配置し、水廻りである脱衣室や浴室はそんなに日の当たらない場所に配置する事が多いため、洗濯機のある脱衣室と日当たりの良い物干しをする場所との距離が離れて動線が長くなってしまいます。だからと言って、家事動線を優先されれば、日当たりの良い快適なリビングルームをあきらめる事になってしまふかもしれません。そんな事何も考えなくとも良いくらい広い敷地で大きな建物であれば問題はないのでしょうか？

しかし、これがなかなかうまくいかない事の方が多いのです。建物の規模や立地条件によつては、家事動線を分断せざるを得ない場合がほとんどだからです。

動線の満足度が高い住宅を作るには、セオリー通りな動線計画がない事が多いからこそ、創意工夫が必要で、その為には、毎日家事をする奥様や、夜遅くまで仕事をして、家に帰つて一人でご飯を食べる旦那さんの行動をしっかりと聞き取る必要があるのです。

また人によつては、洗濯は必ずしも日中干すとは限りません。共働きのご夫婦であれば、夜寝る前に洗濯をして物干しをする事だつてありますし、そういう場合は、寝室等のプライベートな個室を配置する2階に、お風呂と室内物干しを兼ねた脱衣（洗濯）室を配置しても良いと思います。そのほうが、就寝前にお風呂に入りながら洗濯機を回す事もできますし、洗濯物を取り込んだ後、寝室で畳んでそのままクローゼットに収納できたりと、洗濯をする家事動線がコンパクトになります。そして、2階に物干しスペースがあるという事は、窓を開放しておいても、不用心にはならないのかも・・・。場所によりますが。

動線を計画するという事は、住む人の習慣を知る事が大切で、それに合わせた動線計画が使い勝手に反映されるものだと思います。

つまり動線計画は、住人の生活習慣を振り返る事なのです。逆に言えば動線の先に住人らしさが垣間見れる。そんな家が良い家だと思います。